

岩 岳 山 の 植 生

村 田 源 *

The Vegetation of Mt. Iwatake, Shizuoka Prefecture

Gen MURATA*

岩岳山(1390m)は静岡県周智郡春野町にあり、赤石山脈のほぼ南の端に位置し、山頂部には温帯植生をのせている。ここは京丸ボタンの伝説(杉本, 1973)で有名なアカヤシオの大群落(斉藤, 1970; 杉野, 1970)があるということで、かねてから一度おとづれて見たいと思っていたが、1972年4月末、静岡大学の近田文弘氏のお世話で調査する機会を持つことができた。これはその調査記録である。ルートは気田から車で松川ぞいに平城に至り、杉峰に登って尾根の上の林道を経て高杉から小侯京丸の谷の奥に至り、ここから歩いて岩岳山頂を往復するコースをとった。

車を止めた小侯京丸上の谷のあたりは、中生層の四万十帯にあり、ずたずたに破砕された粘板岩の層が大きく崩壊して黒いはだをむき出しにしている。湿った岩壁にはところどころヒメレンゲが真黄に咲きほこっていた。谷を渡って対岸の急斜面をはいやうにして登る。ヤマグルマ、キヨズミミツバツツジ、ヤマイワカガミなどの花が満開である。

キヨズミミツバツツジ *Rhododendron kiyosumense* MAKINO はコバノミツバツツジに似ているが、葉がやや小形で、葉柄及び中肋下面に毛がなく、下面中肋の両側にちぢれた白毛があり、房総、伊豆あたりからこの附近まで分布する。エンシウウハグマやイワシャジンなどと共に注目される。

しばらくはスギの植林地で、伐採跡に若い苗が植えられたばかりの斜面をのぼる。切株を見てもこのあたりのスギの成長はかなりよい。基岩がいちじるしく破砕され、小礫岩を含む崩土の堆積したようなところ、特に粘板岩や黒色泥岩、頁岩、石墨などの黒い岩のあるようなところは必ず地下水が豊富で、土木工事やトンネル工事などには最も手こずるところであるが、スギの植林には一等地であることが多い。対岸の尾根の向うに右につづいて見える尾根の斜面はずっと上の方まで黒々とスギの植林がつづいている。

林床の道端ではエイザンスミレ、ハルトラノオ、コウライテンナンショウ、スルガテンナンショウ、チゴユリ、タチツボスミレ、ツルキンバイ、イワボタン、モミジイチゴ、タチキランソウ、フキ、カスミザクラ、シキミ、クロモジ、フウロケマン等を採集する。フウロケマン *Corydalis pallida* (THUNB.) PERS. はミヤマキケマンより小形緻細で、花も小さく(長さ18~20mm)数も少なくつき、西日本の中国地方から四国、九州に多いものであるが、ここにもたしかにこの形が産することを確認した。荷小屋峠(1,100m)は小礫の多いがらがらしたところで、北斜面にはカラマツが植林されている。少しそれを越して東に下ったあたりの水場の附近にはサワグルミの林が発達しワサビ、イワボタン等があった。

峠から南に少し稜線上を登ると1,200mあたりから急に基岩が現れて、その上によりやく自然林らしい姿が見える。パラモミ、ブナ、ツガ、ミズナラ、ヒメシャラ等を主とする林で下にはシロヤシオ、ウスギヨウラク、ベニドウダン、アセビ、ミヤマイボタ、ヒメカンスゲ、オトコヨウゾメ、ミヤマガマズミ、ナナカマド、コミネカエデ、スズ、オクモミジハグマ、イヌヨモギ、ヤブレガサ、ユキザサ、コミヤマスミレ、イトスゲ、ヘビノゴザ等が見られる。やがて一つのピークに達し、小こぶ状にもり上がった岩峰の肩には見事なアカヤシオの大群落があつて、ちょうど花ざかりであつた。

アカヤシオ *Rhododendron pentaphyllum* MAXIM. var. *nikoense* KOMATSU はシロヤシオと共に

* 京都大学理学部植物学教室 京都市左京区北白川追分町

Department of Botany, Faculty of Science, Kyoto University, Kyoto 606.

なり大きくなるツツジで、大きいものでは高さ7m以上に達し、1,000m内外の関東以西の岩峰に生えるが、その産地はかなりまれである。近畿では三重県の御在所岳山頂の花崗岩上にこの群落(村瀬, 谷元, 1974)が見られるが、ここのものよりはるかに規模は小さい。花はうつむいて咲くところからチョウチンツツジと言われることもあるが、全く葉に先がけて開き、花柄に腺毛があり、10本の雄ずいの中の半数に下半部に毛がある。変種のアケボノツツジ var. *pentaphyllum* は紀伊半島、四国、九州の岩場にあり、雄ずいや花柄に毛がないので区別される。(斎藤, 1970)の調査によると、アカヤシオでは根際周囲32.5cm、樹齢186年、シロヤシオでは根際周囲38cm、樹齢274年のものが記録されている。



このアカヤシオ群落は、変成岩の硬い部分が浸蝕にたえて骨のように残った岩尾根の稜線上に成立した、土壌の極相林として、表日本の冷温帯針葉樹林、ツガ-ウラジロモミ群集の中に成立するものであると思われる。この温帯性針葉樹林は表日本側の温帯の特徴である。

ここでは上木にまばらにバラモミ、ブナ、ツガ、ミズナラ等をともなっている。文化庁天然記念物緊急調査植生図(文化庁, 1971)ではツガ-トウヒ-イタヤ-ミズナラ林としてまとめてある。

岩岳山の山頂はやや広い平な部分があり、岩岳神社がまつられ、スギ、ヒノキなどがまわりに植林されている。附近の林床にはマイズルソウが多い。

山頂近くの稜線から東の斜面はすっかり伐採されて、カラマツ、ヒノキなどが植林されているが、稜線近くのものほとんどがまともに育たず立枯れたり、先が枯れたりして造林失敗地となっている。常識で考えても、このようなアカヤシオやシロヤシオが群落を作っているようなやせ尾根の稜線上まで伐採、植林を行って採算のとれる造林施業が成立つはずがないと思うのに、国有林では最近しばしばこうしたことが各地で見られるのは遺憾の極みである。おそらく数千年という歳月をかけて、自然に成立したであろう瘠悪稜線上の特殊岩上自然植生を、無ざんにも伐採して採算のとれるはずもない植林を行って、山稜を荒廃させ、その上に除草剤を散布するに至っては言語同断である。現在でもこうした本当の自然破壊が最も大じかけに、国有林で行なわれているのである。

非生産的な自然林はすべて伐採して、材木をより効率よく生産する畠とし、使いものにならないような瘠悪地は公園や防災保護林などにして観光や国民のリクリエーションの場として使えばよいといったような、あやまった自然林に対する認識が、まだ林野庁には根強く生づいているのであろうか?。現在まことに数少なくなった本当の自然林(原生植生)というものは、国宝や重文に指定されているような建築物や仏像、美術品等の人工的文化遺産よりも、はるかに価値の高い自然文化財であることをもっと認識すべきである。自然というものに対する我が国の林野行政の根本的な体質の改善が望まれる。

当時岩岳山の西斜面に残されていた自然林の部分は、営林署では造林困難地として、伐採の対象からはずしているということであったが、こうした岩尾根上の植生回復困難なところは、もともとから森林施業の対象地としてはならないのであり、またこのように貴重な自然植生の残っているところはもっと積極的に保護すべきである。

幸い静岡県自然保護協会の方々の努力が実ってか気田営林署ではその後この群落の学術上の価値をみとめて、岩岳山西斜面を学術参考保護林に指定(杉本, 1973)、保護に乗り出したのはまさに適切な処置である。

ただ一日だけのあわただしい登山で、記録も不完全であるが、この林の組成のスケッチというような意味で組成表をそえておきたい。最後にこの調査に同行していろいろと御協力いただいた静岡大学理学部の近田文弘氏、並びに気田営林署の方々に深く感謝申し上げる。

植 生 調 査 票

№. 1 (Mt. 岩岳山—荷小屋峠間)

(地形) 尾根 (土壌) 固岩屑 (風当) 中 (日当) 陽 (土湿) 乾 (海拔) 1,200m

(階 層) (優占種) (高さm) (植被率%) (胸径cm) (種数)

I	高木層	バラモミ	20	70	70	7
II	亜高木層	Acer sp.	8	30		
III	低木層	スズ	1.5	50		
IV	草本層	イトスゲ	0.3			

(群落名) バラモミ—スズ群落 1972年4月29日 調査者 村田 源

L	D・S	Spp.	L	D・S	Spp.	L	D・S	Spp.
I	3・1	バラモミ		+	ミズナラ		+	ホツツジ
	2・1	ブナ		+	バラモミ		+	ミヤマイボタ
	1・1	ミズナラ		+	アセビ		r	ツクパネ
	+	ツガ	III	2・3	スズ	IV	1・2	イトスゲ
	+	ハリギリ		1・1	クロモジ		1・1	ヒメカンスゲ
	+	ヒメシャラ		+	ガマズミ		1・1	Aster sp.
	+	クマシデ		+	ミヤマガマズミ		+	コウライテンナンシヨウ
II	2・1	Acer sp.	+	アセビ	+	ユキザサ		
	1・1	シロヤシオ	+	コミネカエデ	+	ツガ		
	+	リョウブ	+	モミジイチゴ	+	イヌヨモギ		
	+	イモノキ	+	ウスギヨウラク	+	ヘビノネゴザ		

№. 2 調査地 (Mt. 岩岳山)

(地形) 山頂: 尾根 (土壌) 固岩屑 (風当) 強 (日当) 陽 (土湿) 乾 (海拔) ca, 1,300m

(階 層) (優占種) (高さm) (植被率%) (胸径cm) (種数) (備考)

I	高木層	バラモミ	10	10		ブナ—スズタケ群集中
II	亜高木層	アカヤシオ	8	80		の基岩露出地上に生じ
III	低木層	スズ	1	40		た、土壌的極相であ
IV	草本層	マイズルソウ	0.3	30		る。

(群落名) バラモミ—アカヤシオ群落 1972年4月29日 調査者 村田 源

L	D・S	Spp.	L	D・S	Spp.	L	D・S	Spp.
I	1・1	バラモミ	III	+	ミヤマヤシャブシ	IV	1・3	マイズルソウ
	1・1	ブナ		3・2	スズ		1・2	ヒナスゲ
	+	ミズナラ		+	ベニドウダン		+	オオカメノキ
	+	ツガ		+	スノキ		+	シロヤシオ
II	4・1	アカヤシオ	+	ホツツジ	+	アセビ		
	1・1	アセビ	+	クロモジ	r	メタカラコウ		
	+	オオカメノキ	+	バラモミ				
	+	ネジキ	+	ツガ				

Summary

This is a report of a botanical trip to Mt. Iwatake (1390m alt.) in Shizuoka Prefecture in 1972. A well-developed forest (*Rhododendron pentaphyllum* var. *nikoense* - *Picea polita* association) was observed among *Picea* - *Tsuga* forests on rocky ridge near the summit. This forest is considered to be an edaphic climax caused by the most severe water condition on the rocky site.

引用文献

- 齊藤全生 1970. 岩岳山のツツジ林 静岡県自然保護協会学術報告 3~4.
 杉野孝雄 1970. 岩岳山と附近の植物 同上 6~8.
 杉本順一 1973. 遠江国の伝説の花京丸の牡丹の話 植物と自然7(9)2~3.
 文化庁 1971. 天然記念物緊急調査植生図.
 村瀬忠義, 谷元峰男 1974. 御在所岳のアカヤシオ群落 滋賀の生物 81~82.

◇ 雑報 岩岳山ツツジ群落保護の現状

岩岳山のツツジ群落は現在三方面からの法律, 条例等によって保護されている。

(1) 学術参考保護林。1973年東京営林局による経営計画編成中に指定。岩岳山, 竜馬岳の稜線の西側を中心とする面積199.39haの範囲。学術参考保護林というのは林野庁独自で指定保護する森林である。

(2) 国指定, 天然記念物。1974年11月26日, 文部省告示第165号指定。指定基準は稀有の森林植物相による。指定面積, 約200ha。春野町当局では1974年3月1日付で国指定天然記念物に指定するよう文部大臣あて申請した。

この指定は文化財保護法に基づくもので, 指定の結果, 営林署長は管理上必要な保存施設として, 標識, 説明板, 境界標又は囲さく等を設置しなければならないとされている。さらに法律に基づいて指定地の管理者になることがある。これらの法律によって, 現在気田営林署が諸施設を設置し, 管理業務を行っている。今年度の管理では, 花期の間毎日5人の巡視班が現地の管理にあたったとのことである。また春野山の会(会長藤原哲人氏)も保護のため努力を惜しまないとのことである。

(3) 静岡県指定, 自然環境保全地域。1975年2月20日指定。岩岳山のツツジ群落地を含む京丸山から岩岳山の南方に至る稜線地域が「京丸・岩岳山自然環境保全特別地域」として指定された。この指定は自然環境保全法に基づいて作られた静岡県自然環境保全条例によるもので, 専ら自然環境の保全をねらいとしている。この指定により森林は10%以内の択伐または30%以内の単木択伐に制限される。

以上のように岩岳山のツツジ群落は三重の保護の網によって守られている。しかしこれで保護が完全と思うのは早計であろう。春野山の会によってシジジ群落の保護が訴えられてから行政的に保護策がとられるまで困難な5ケ年を必要としたが, 今後, 末永くこの国の宝を伝えるためにまだ多くの人の努力が必要なことと思われる。

この稿のために春野町教育委員会及び気田営林署大森氏に御教示を頂きました。感謝します。(近田文弘)